

第 2 学年 美術科学習指導略案

1 題材 「木彫 なべ敷」 デザイン・工芸

- 2 目標
- 造形材料としての木の魅力や可能性について理解を深める。
 - 思いついた考えをアイディアスケッチとしてまとめることができる。
 - 彫刻刀の使い方を学び、彫りに生かすことができる。
 - 自分の作品や友だちの作品から、よさや美しさを感じ、作品の見方を広げる。

3 題材の指導計画 (12 時間)

配時	学習活動・内容	留意点	観点：評価規準 ＜評価の方法＞
1	<p>1 身のまわりで木を使用した物を発表させ、木の魅力を話し合う</p> <p>2 説明を聞き、行程を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制作工程 スケッチ 彫り 表面加工 鑑賞 ・スケッチ 絵柄の指定（草花、模様） ・彫り方のいろいろ 線彫り 浮き彫り 薬研彫り ・表面加工 やすりがけ 着色 ニス塗り 	<ul style="list-style-type: none"> ○図鑑や写真から絵柄を単純化させる。 ○彫り方の違いを、作品を見せながら説明する ○浮き彫りを主に使用すること 着色は数種類から選択させる 	<p>関：完成までの行程に関心をもち、造形材料としての木の魅力や可能性に気づくことができる。</p> <p>＜プリント分析＞</p>
2	<p>3 アイディアスケッチをする</p> <p>材料にスケッチを転写する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○スケッチは点検し浮き彫りがしやすい絵柄を選んでいるかを確認する 選択した絵柄の形の特徴を生かして単純化させる ○けががないように使用方法を指導する 	<p>発：作品のイメージや特徴をいかすことができ、デザインをアイディアスケッチとして表すことができる。</p> <p>＜スケッチ分析＞</p>
6	<p>4 彫る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・切り出し刀、三角刀、平刀の使い方を確認する ・彫り方の違いによる彫刻刀の使い方を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ○彫りの深さについて、助言をする。 ○見本の材料で彫り方や深さを彫って指導する。 	<p>技：彫りの深さを工夫し作品に生かすことができる。</p> <p>＜作品分析＞</p>
本時 (6/12)	<p>5 彫りの深さや浮き彫りの効果を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を見ながらの助言をもとに彫りをさらに工夫する 		
2	<p>6 表面加工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙やすり ・着色用から 1 色を選択し、着色する ・乾燥後、ニス塗りをする 	<ul style="list-style-type: none"> ○やすりがけは木の表面の手触りがよくなるまで行う。(着色の効果をよくするため) ○ニス塗りは効果が出るまで重ね塗りを行う。(3～5回) 	<p>技：手触りや木目の美しさをより生かすことができる。</p> <p>＜作品分析＞</p>
1	<p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・級友の作品を鑑賞し、よいところを見つける。制作の感想をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○他の作品のよさ、自分が気付かなかった工夫した点を発見する。 	<p>鑑：級友の作品の彫りの魅力を確かめながら、木のよさや特徴をまとめることができる。</p> <p>＜プリントの分析＞</p>

3 本時 6 / 12 時

(1) 本時の指導観

- ・彫りの 3 時間めであり、全体的な様子がわかる頃なので、特に彫りの深さに着眼させる。浮き彫りの場合、細かな絵柄は浅い彫り方でもよいが、大まかな絵柄や主役となる絵柄は深さをより深くすることで、作品のよさが強調される。草花や人物などをモチーフにしている絵柄は表面の凹凸に工夫することが大切である。
- ・彫刻刀はけがをしやすい道具なので使用方法を確認し、けがをなくす。

(2) 主眼

- ・彫りの深さによる見え方の違いを知り、作品に生かすことができる

(3) 準備 ①彫刻刀 ②滑り止め ③彫りの見本

(4) 過程

学習活動・内容	○手だてや留意点 ◆〔観点〕評価 <評価方法>				
<p>1 本日のめあてを確認する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 主題が明確になるように、彫刻の深さを調整し、表面の彫りの工夫をしよう </div> <p>2 彫刻刀の使い方を確認する</p> <p>3 浮き彫りの彫り方を再度確認し、外側の深さについて検討する</p> <p>4 説明をもとに自分の作品の深さを検討しながら彫る</p> <p>5 本時のまとめをする 「制作プリント」の記録</p>	<p>○切り出し刀や平刀の切る方向、左手のそえ方を確認し、けががないように注意を促す</p> <p>○スケッチと周りの深さの関係を確認する（絵柄の一番遠い部分をより深く、近い部分を浅く彫る） ○浮き彫りの彫り方を再確認する</p> <p>○ 机間指導をしながら深さを助言していく ◆[技]彫りの深さを工夫し作品に生かす<作品分析></p> <table border="1" data-bbox="619 1283 1425 1413"> <thead> <tr> <th data-bbox="619 1283 1026 1314">A</th> <th data-bbox="1026 1283 1425 1314">B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="619 1314 1026 1413">彫りの深さの工夫ができ、レリーフの魅力が表現できる</td> <td data-bbox="1026 1314 1425 1413">浮き彫りを理解し取り入れることができ、遠いところを深く、近いところを浅く彫っている</td> </tr> </tbody> </table> <p>Cの生徒への手だて 生徒の作品の一部分を彫る。補足説明を加える。</p> <p>○後片付け ○班の担当者が自分の班の周りを掃く ○作品、貸し出されたものを返却する</p> <p>○本時の活動を振り返り、「制作プリント」に本時の感想を記入するよう指示する。</p>	A	B	彫りの深さの工夫ができ、レリーフの魅力が表現できる	浮き彫りを理解し取り入れることができ、遠いところを深く、近いところを浅く彫っている
A	B				
彫りの深さの工夫ができ、レリーフの魅力が表現できる	浮き彫りを理解し取り入れることができ、遠いところを深く、近いところを浅く彫っている				